

平成 30 年 度

八代市議会経済企業委員会記録

審 査 ・ 調 査 案 件

1. 所管事務調査 1

平成 30 年 7 月 27 日 (金曜日)

経済企業委員会会議録

平成30年7月27日 金曜日

午後3時00分開議

午後3時19分閉議（実時間19分）

○本日の会議に付した案件

1. 所管事務調査

- ・産業・経済の振興に関する諸問題の調査
- ・病院・水道事業に関する諸問題の調査

（八代市立病院の医療機能再編移転に関する報告について）

○本日の会議に出席した者

委員長	成松由紀夫	君
副委員長	西濱和博	君
委員	亀田英雄	君
委員	北園武広	君
委員	庄野末藏	君
委員	高山正夫	君
委員	増田一喜	君

※欠席委員 君

○委員外議員出席者中発言の許可を得た者

君

○説明員等委員（議）員外出席者

市長公室長	東坂	宰	君
市長公室次長	谷脇	信博	君
部局外			
市立病院事務部	田中	智樹	君
事務長兼医事係長			

○記録担当書記

中川紀子 君

（午後3時00分 開会）

○委員長（成松由紀夫君） それでは、定刻となり定足数に達しましたので、ただいまから経済企業委員会を開会いたします。

◎所管事務調査

- ・産業・経済の振興に関する諸問題の調査
- ・病院・水道事業に関する諸問題の調査

（八代市立病院の医療機能再編移転に関する報告について）

○委員長（成松由紀夫君） 当委員会の所管事務調査は、産業・経済の振興に関する諸問題の調査、病院・水道事業に関する諸問題の調査、以上の2件であります。

このうち、本日は、病院・水道事業に関する諸問題の調査に関連して1件、執行部から発言の申し出がっておりますので、これを許します。

それでは、八代市立病院の医療機能再編移転に関する報告についてをお願いします。

○市長公室長（東坂 宰君） 皆様、こんにちは。（「こんにちは」と呼ぶ者あり）市長公室の東坂でございます。本日は、八代市立病院の医療機能再編移転に関する報告ということでこれから説明をさせていただきます。なお、詳細につきましては、次長の谷脇が行いますので、よろしく願いいたします。

○市長公室次長（谷脇信博君） こんにちは。（「こんにちは」と呼ぶ者あり）市長公室の谷脇でございます。よろしく願いいたします。

本日は、先ほど公室長が申しましたように、八代市立病院の医療機能再編移転に関する報告につきましてさせていただきます。着座にて説明させていただきます。

国民健康保険八代市立病院廃止に伴う医療機能再編計画に沿って御説明いたします。お手元に置いてあります冊子がそちらでございます。

なお、ごらんのとおり表紙に書いてあります

とおり、下のほうに書いてあります、八代市と熊本総合病院、そして八代北部地域医療センターの三者で策定し、熊本県八代保健所の立ち合いのもとに、合意の覚書を交わしたものがこちらでございます。

まず、3ページの計画策定の経緯でございますが、3ページをお開きください。

八代市立病院は、急性期医療で治療を終えられた患者さんの在宅復帰、そして介護福祉施設への入所などに至るまでの間受け皿として、また、急性期医療のレベルまでは要しない状態の患者たちさんの受け入れ先として、八代地域医療における後方支援機能の役割を担ってまいりました。

しかし、平成28年の熊本地震の際に、たび重なる震度5クラスの余震が発生する中、老朽化が著しく、耐震性の低い病棟をそのまま使用することは入院患者にとっては危険と判断し、当時入院していた全患者52名に転退院していただいたものです。

その後、外来診療は続けたものの入院患者の受け入れは停止した状態が続いております。

そのような中、同規模の病院再建や規模を縮小しての病院の再建。また、それらに伴う経営収支の試算など、いろいろなケースを想定して検討を重ねてまいりましたが、建設費用が40億から50億円かかり、経営も年間4億から5億円の赤字収支となることが予測されますことから、昨年11月の第2回八代地域医療構想調整会議の場で、中村市長から八代医療圏にあります4つの公的な医療機関に病床を再編移転するとともに、外来診療機能の事業譲渡を考えている、との旨を委員の皆様へ報告され、御意見を伺いました。

会議の中では、八代市立病院の役割でありました後方支援機能の確保についての御意見のほか、4つの公的な医療機関からもおおむね協力的

な御意見をいただきましたことから、速やかに再編移転する病床の受け入れと外来診療機能の譲渡について、4つの公的な医療機関に打診しましたところ、熊本総合病院と八代北部地域医療センターから受け入れ可能との御返事をいただき、その後はこの再編計画について、八代市と熊本総合病院、八代北部地域医療センターの三者で協議を重ねてまいりました。

6ページをごらんください。6ページから15ページは三者の施設概要や診療科目、沿革や財務状況の推移などを、それぞれ記載しております。

16ページから、よろしいでしょうか。16ページからの八代医療圏の現状と特徴では、八代医療圏における将来の総人口や高齢者人口を推計し、17ページ以降は八代医療圏の医療提供体制などを整理しております。

右側の18ページになりますが、八代医療圏では慢性期病床が過剰で、回復期の機能を持つ病床が不足している現状がうかがえます。

そこで20ページになりますが、八代医療圏域内における八代市立病院の有用性を検証しましたところ、冒頭に申し上げましたような八代の地域医療の後方支援機能としての役割を有していることが確認され、また、21ページになりますが、現在の八代保健所と連携しながら、八代市、氷川町、八代市医師会、八代郡医師会の四者が一体となって取り組んでおります地域包括ケアを推進する上でも、この八代市立病院が有する機能の再編移転は有意義であると判断いたしましたところ です。

22ページからが、今回の再編移転、事業譲渡計画の目的や概要でございます。

繰り返しになりますが、八代市立病院の運営を続けることは、本市にとりまして、財政面などに大きな困難を伴います。

一方で、八代医療圏では回復期機能が不足し

ている状況であり、また、八代医療圏域外への患者流出が発生している状況の中、これまでの八代市立病院の機能が失われた場合の地域医療に与える影響は大きいと考えました。

そこで、八代市立病院は廃止するものの、その医療機能を公共性、公平性が高い2つの公的な医療機関に対する病床の再編移転、外来機能の事業譲渡という形で残すことで、地域全体で分担して機能維持を図ることを本計画の目的といたしました。

具体的には、23ページ、24ページになります。

本計画の概要としまして、医療法施行規則第30条の32第2号の、複数の病院の再編統合に向けた医療計画制度の特例に基づきますことから、再編により移転する病床数は、現在、八代市立病院が有する一般病床66床のうち、1床を減じた65床を移転することといたしました。

また、移転する病床機能は、八代市立病院の現在の機能であり、八代医療圏で過剰とされている慢性期機能を、不足している回復期機能に転換することとして、あわせて、地域包括ケア病床などの算定を行うこととしています。

なお、それぞれの医療機関に移転する病床数は、八代市内の地理的な条件、日常生活圏域、人口分布なども考慮し、市中心部・南部地域と市北部地域の2か所に、人口に応じて比例配分するものです。

23ページ下段に、地域分け、人口、構成比の表がありますが、その表をもとに右側24ページに記載しておりますとおり、熊本総合病院に56床、八代北部地域医療センターに9床をお願いするものです。

25ページになりますが、これまで八代市立病院に30床ありました結核病床につきましては、熊本県全域の結核病床が基準病床数を大幅

に上回っている現状を踏まえ、市立病院から病床の再編移転は行わず全て廃止いたしますが、八代医療圏域においても高齢者を中心に若干の結核患者の発生も見られますため、熊本労災病院が既存の病床を活用され、診療できる環境整備に取り組んでいらっしゃることで、本市としましても大変ありがたく思っております。

また、外来診療機能の継承につきましては、今回の協議の中で、熊本総合病院からのみ、外来診療機能を継承する他の医療機関がない場合には、地域医療の崩壊を防ぐために、継承する方向に向かって尽力する、との回答をいただきました。

その他の医療機関からは辞退する旨の回答をいただきましたことから、改めて、文書により、外来診療機能の継承を正式に熊本総合病院に依頼し、外来診療機能の譲渡先として協議を進めているところです。

ただいま申しあげましたことにより、27ページ、28ページになりますが、今回の再編移転、事業譲渡の効果としまして、八代市立病院の医療機能が、熊本総合病院が位置する市中心部・南部と、八代北部地域医療センターが位置する市北部エリアに分散されることになり、これまで利便性が課題であった市東部の中山間地・山間地エリアの市民の方々にも、後方支援機能を御利用いただくことが容易になると考えています。

また、外来診療機能につきましても、組織や経営面が安定し、診療科目の多い熊本総合病院に譲渡することになりますと、長年の課題でありました医師不足の不安が解消されますとともに、専門医による診察など、より安定的で質の高い医療サービスの提供が可能になると考えているところです。

最後になりますが、八代市としましては、八代市立病院を廃止し、病床の再編移転、事業譲

渡を行います、八代市としての関与が完全になくなるわけではありません。

これまで市立病院が担ってまいりました機能や役割が適切に維持されているか、今後も見守っていく必要があると考えており、八代保健所にも御相談しながら、病床の再編移転先及び、地域医療機関との意見交換や情報共有が図れるような仕組みを作りたいと考えております。

以上、国民健康保険八代市立病院廃止に伴う医療機能再編計画について御報告させていただきました。

なお、本再編計画は、本日19時からの八代地域医療構想調整会議におきまして、審議されることとなっております。

以上でございます。

○委員長（成松由紀夫君） 本件について、何か質疑、御意見等はありませんか。ありませんか。

○委員（亀田英雄君） 何回も話し、議論を重ねた話と思って久しぶりに聞いたような話です。ね、懐かしかったんですが。こん数、一般病床の数が、66、1床減つとですかね。（市長公室次長谷脇信博君「はい」と呼ぶ）て、いうことになつとですね。わかりました。そして、やはり、なんといいですかね。今まで、結果として後方支援機能が、政策として後方支援機能をしてきたわけじゃない。結果として、後方支援機能をしてきたんだけど、やはり、後方支援機能というのは必要だったという認識に落ち着いたという理解でいいですかね。これをまとめられた経緯というのは。

○市長公室次長（谷脇信博君） はい。今、亀田委員がおっしゃられたとおりでございます。

○委員（亀田英雄君） 最後のページにあつとですが――。ありがとうございました。簡単に答えていただきまして。落ち着きました。（市長公室次長谷脇信博君「済みません」と呼ぶ）

28ページ、八代市立病院が担ってきた機能

や役割が維持されているかどうかの確認を行っていく必要があると。八代市立病院が担っていた機能や役割というのをどう体系立てて捉えているのか。そこばどやんかしかんと何か形ていうかですたい、何か体系化しとらんところ生きてこんというような気がすつとですが。その辺についてどう整理されるのか、考えがあれば聞かせくれんですか。

○市長公室次長（谷脇信博君） 今、お手元の資料の中で戻っていただきますと、地域包括ケアの部分の説明させていただきました。21ページでございます。この地域包括ケアの推進に向けた取り組みというところの中で、今度の市立病院の慢性期機能を回復期機能に転換して、それで今の市立病院が持ってます役割、機能を引き継いでいただくということですが、これはあくまでも地域包括ケアの体制でございますが、下のほうのスキーム図のような形で、また別立てで関連する、今回譲渡する熊本総合病院と八代北部地域医療センター、それ以外にも実際、この地域包括ケアに携わってくださっております、八代市医師会、もちろん郡医師会はスキームに入っていますね。あとは、労災病院と熊本県下の八代保健所あたりにこの辺の意見交換する組織を新たに立ち上げて、それでしていきたいと考えております。

○委員（亀田英雄君） もう一ついいですか。わかりました。わかりましたというか、ようわからんとすばつてん。市立病院がこやんなつてしょうが、そうすつと、医療費とか高くなるというような心配も一部には――何かそやん気のせんでもなつかですたい。そのようなことがあればどのように対応していくのか。国保があがるとか何とかばい人もおつとですが。その辺のことはなんも心配はなかですかね。危惧されておられませんか。

○委員長（成松由紀夫君） 医療費の話ですか。

(委員亀田英雄君「うん、医療費には影響与えないかな」と呼ぶ) 医療費の影響について誰か答弁できますか。

○市立病院事務部事務長兼医事係長(田中智樹君) 今後の医療費について、医療費については、診療報酬等で一定の基準が定められておりますので、病院がなくなって他の病院になったからといって、急激に医療費が上がるということはないと、ただ、それぞれのやっぱり、検査の内容だとかいうのはやっぱそれぞれ病院の持っている設備だとかスタッフで違ってまいりますので、全くこれが影響がないのかあるのかというのは、まだそこはちょっとわからないところがあるところがございます。(委員亀田英雄君「わかりました。以上です」と呼ぶ)

○委員長(成松由紀夫君) よろしいですか。ほかにございませんか。ございませんか。

なければ、以上で、八代市立病院の医療機能再編移転に関する報告についてを終了いたします。

ほかに、当委員会の所管事務調査について、何かございませんか。ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(成松由紀夫君) なければ、以上で本日の委員会の日程は全部終了いたしました。

これをもちまして、経済企業委員会を散会いたします。

(午後3時19分 閉会)

八代市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

平成30年7月27日

経済企業委員会

委員長